



TITLE:

渡瀬浩教授献辞

AUTHOR(S):

平田, 清明

CITATION:

平田, 清明. 渡瀬浩教授献辞. 経済論叢 1984, 133(3)

ISSUE DATE:

1984-03

URL:

<http://hdl.handle.net/2433/134021>

RIGHT:

經濟論叢

第 133 卷 第 3 号

渡瀬 浩教授記念號

献 辞	平 田 清 明	
経営戦略論に関する若干の考察 (1)	降 旗 武 彦	1
伝統理論と近代理論	飯 野 春 樹	28
日本的経営の組織論理	数 家 鉄 治	48
組織化の過程と進化モデル	岸 田 民 樹	67
タイにおける日系企業の経営構造	中 川 多喜雄	92
社会・技術システム論批判の検討	赤 岡 功	114
日本における部品取引の構造	浅 沼 萬 里	137

渡瀬 浩 教授 略歴・著作目録

昭和 59 年 3 月

京 都 大 學 經 濟 學 會



渡瀬 浩教授近影

渡瀬 浩 教授 記念論文集

献 辞

渡瀬 浩先生は、昨年9月9日に63歳の誕生日をお迎えになり、京都大学教員停年規程にもとづき、本年4月1日をもって経済学部の教壇から退かれることとなりました。

先生は、長崎大学経済学部で本格的な研究の基礎を学ばれ、研究生生活にお入りになりました。爾来、今日までに、その御研究は、6冊の著書と幾多の論文となって結実しておりますが、先生の御関心は、一貫して、社会学の見地から経営をとらえることにありました。経営は、共同体や家庭と並んで社会の部分組織を形成するものであるという構造的把握の立場から、先生は経営組織の諸問題を見すえてこられました。先生の社会学への御関心は、戦前、南満州鉄道株式会社に勤務していらしゃった頃から生まれており、その頃から、折にふれて高田保馬博士に教えを受けられたとうかがっています。後年、先生が京都大学経済学部で教鞭をおとりになるに至ったのも、奇しき因縁であると思われます。

先生は、昭和53年に、大阪府立大学経済学部から本学にお移りいただき、わが学部がさまざまな紛争のあと、ようやく次の飛躍に向かおうとする時期に、京都大学評議員、経済学部長などの重責を負われました。また、大阪府立大学御在職の当時から、組織学会理事および評議員、大阪府地方労働委員会委員などとして学会や社会に寄与してこられました。京都大学経済学部経営学科が、新たな発展の時期を迎えようとしているときに、先生をお送りすることになりましたことに、感慨なきを得ません。

ここに、先生と常々御交誼の深い、あるいは直接間接に御指導を受けた研究者たちの作品からなる記念論文集をお送りできることは、私どもの喜びであります。どうか先生が、いっそう御健康に恵まれ、この上とも御研究と後進の指導とに御貢献下さいますことをお祈りいたします。

1984年2月3日

京都大学経済学部長 平 田 清 明